

# 森林火災煙と雲識別

ひまわり8号は気象だけでなく、地上の現象も見つめている。

9月11日のインドネシア・スマトラ島。積

雲が点在する中で、島の東部に、赤茶色を

む灰色の筋がいくつも斜めに伸びている(写真矢印部分)。筋の幅は広がったりゆらめいたりした。

夏から断続的に発生し続けている森林火災

の煙だ。この画像に着目したのは、千葉大環境リモートセンシング研究センターの豊嶋絢一・特任研究員。「画像がカラーになり、煙と雲の識別が容易にな

った」と指摘する。

ひまわり7号は単色の画像だった。8号は、3種類の波長でとらえた画像を合成し、カラー化を実現した。

森林火災は、農地を広げるための違法な野焼きなどが引き金となる。毎年5〜9月の乾期に多いが、今年は特に多発。煙が南寄りの

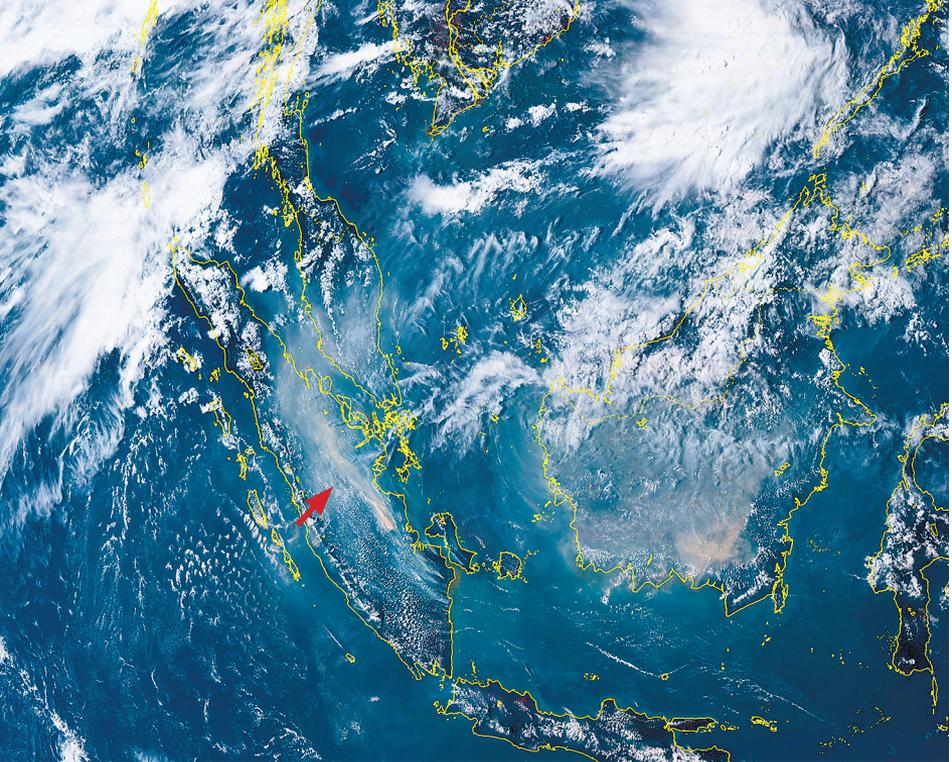
季節風に乗って北のマレーシアやシンガポールを襲い、視界不良や大気汚染、健康被害、学校休校など深刻な煙害を起こしている。

南米ペルー沖で太平洋の海面水温が高くなる「エルニーニョ現象」の発生も影響している。気象庁によると9月は平年より2・6度も高い。エルニーニョである今年は、積乱雲が活発に発生する海域が東に移動し、インドネシア周辺は乾燥する。10月の雨期に入っても雨が少なく、燃え広がりがやすい状態は続く見込みだ。

大阪本社編集局次長・松田秀敏(気象予報士)



ヘリから見た火災の様子  
9月23日、ロイター



ひまわり8号が撮影したインドネシアのスマトラ島での森林火災の煙9月11日午後4時

★情報通信研究機構が公開している「ひまわり8号リアルタイム画像Web」は、スマートフォンやパソコンなどで自由に閲覧できます。(一部機種非対応)



共同企画・監修  
情報通信研究機構  
(NICT)/千葉大  
環境リモートセン  
シング研究センター